

2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月28日

上場会社名 株式会社ナガセ 上場取引所 東
 コード番号 9733 U R L <https://www.toshin.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永瀬昭幸
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務本部長 (氏名) 内海昌男 T E L 0422-45-7011
 配当支払開始予定日 一
 決算補足説明資料作成の有無: 有
 決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	47,725	20.9	4,904	28.4	4,854	60.8	3,288	98.2
2025年3月期第3四半期	39,487	△0.2	3,819	1.9	3,018	△16.5	1,658	△23.2

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 7,521百万円 (101.7%) 2025年3月期第3四半期 3,729百万円 (△9.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭 124.91	円 銭 一
2025年3月期第3四半期	63.01	一

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
2026年3月期第3四半期	百万円		百万円		%	
2025年3月期	95,794		36,061		37.6	
2025年3月期	90,107		31,172		34.6	

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 36,061百万円 2025年3月期 31,172百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 一	円 銭 0.00	円 銭 一	円 銭 100.00	円 銭 100.00
2026年3月期	一	0.00	一	100.00	100.00
2026年3月期(予想)				150.00	150.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	64,764	17.2	6,526	34.1	6,373	64.3	3,815	95.0
								144.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名) 一 、除外 一社 (社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
② ①以外の会計方針の変更	：無
③ 会計上の見積りの変更	：無
④ 修正再表示	：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数（四半期累計）

2026年3月期 3 Q	30,445,227株	2025年3月期	30,445,227株
2026年3月期 3 Q	4,119,141株	2025年3月期	4,119,141株
2026年3月期 3 Q	26,326,086株	2025年3月期 3 Q	26,326,086株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、P. 3 「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料は決算短信の公表後速やかに当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績等の概況

当四半期連結累計期間(2025年4月1日～2025年12月31日)における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や政府の各種政策の効果もあり、緩やかに回復しております。先行きについては、今後の物価動向や米国の通商政策をめぐる動向などの景気を下押しするリスクに留意する必要があります。また、金融資本市場の変動等の影響に注視を要する状況にあります。

教育業界では、2020年度以降小学生の英語教科化、プログラミング教育の導入、「大学入学共通テスト」への移行を柱とした大学入試改革、2022年度からは高等学校で新学習指導要領が実施され、2025年「大学入学共通テスト」から「情報I」が試験科目に加わるなど、教育改革が制度面から進んでおります。また、教育手法の革新という面では、通信インフラの整備やデジタル化の急速な進展を背景として、AIやIoTの活用による新たな学習形態やそれに対応したコンテンツが求められております。さらに、政府も強力に推進する社会人の学び直し(リスキリング)としてのIT・DXリテラシー教育需要の高まりなどにより、機動性の高い民間教育が担うべき役割や責務はますます大きくなっています。各企業は、少子化による市場縮小に加え、事業環境の大きな変化や他業種企業の参入、また、生徒、保護者の厳しい選別にも直面し、企業間競争はさらに激しさを増しております。

スイミング・フィットネス業界では、プールの老朽化を背景とした小・中学校の水泳授業の民間委託増加、健康寿命延伸を目的としたシニア層の運動への関心の高まりなどを受けた新たな需要が生まれてきており、民間企業の担う役割は一層大きくなっています。

このような環境の下、当社グループは、人財育成企業として、「独立自尊の社会・世界に貢献する人財の育成」という教育理念をグループ全体が共有し、その実現に取り組んでおります。「心・知・体」の教育を総合的に行える体制の構築を目指し、高校生部門(東進ハイスクール、東進衛星予備校、早稲田塾等)、小・中学生部門(四谷大塚、木村塾等)、スポーツ事業部門(イトマンスイミングスクール、イトマンスポーツスクエア)を中心に、各部門が提供するコンテンツの充実や教育指導方法の深化、受講環境の整備などを進めております。

高校生部門では、AIを活用した受験生対象の「志望校別単元ジャンル演習講座」「第一志望校対策演習講座」、高校2年生対象の「個人別定石問題演習講座」、高校1年生対象の「個人別基礎定着演習講座」の進化に加え、日本最多の12大学のべ69回の「大学別模試」の設置をはじめとする模試の拡充など、合格に直結する得点力強化への取組みを強力に推進しました。さらに、新規校舎として「東進ハイスクール勝どき駅上校」を2025年7月に開校したほか、生徒数の増加に対応したよりよい学習環境の整備のため、2025年4月に東進ハイスクール下北沢校、2025年5月に東進ハイスクール市ヶ谷校をそれぞれ新校舎に移転しております。スポーツ事業部門では、2024年12月1日付で株式会社イトマンスポーツウェルネスをグループ化したことにより拡がった商圏も含め、幼稚園・保育園との連携や自治体・小中学校受託事業の拡大を図り、地域に密着した事業展開に積極的に取り組みました。加えて、スイミング以外の体育事業の拡大や大人向け・シニア向けのフィットネス・ジムなど、幅広い層へのビジネスの強化も進めています。2025年9月には新業態として「ピラティス30スタイル」1号店を神奈川県茅ヶ崎市辻堂に新規出店しました。また、ビジネススクール部門では、企業対象の語学・ビジネススキル研修で培ったノウハウを活かし、新たな成長分野としてIT・DX研修への取り組みを積極的に進めました。そのほか、2025年4月からは大学生向けに東進AIスクールを開講し、AI等の知識・スキルに加え、データを活用した市場分析やビジネス戦略立案等の「社会で通用する実践力」を磨く場の提供取り組みも開始しております。

こうしたなか、当第3四半期連結累計期間の営業収益は対前年同期8,237百万円の増加となる47,725百万円(前年同期比20.9%増)となりました。これは、スポーツ事業部門が、株式会社イトマンスポーツウェルネスの加入などにより5,855百万円の増収となったことに加え、高校生部門が、期中の生徒数が前年を上回って推移したことによるものであります。

費用面では、全体で対前年同期7,152百万円の増加となる42,820百万円(前年同期比20.1%増)となりました。これは、株式会社イトマンスポーツウェルネスの加入による増加に加え、新規模試の開発など、当期も学力の大巾向上の実現に焦点を絞った施策を引き続き積極的に進めたほか、賃金ベースアップに伴う人件費などの増加要因があつたことを主因とするものであります。

また、第1四半期連結累計期間において、東進ハイスクール校舎に係る移転補償金244百万円を特別利益に計上しております。

この結果、営業利益4,904百万円(前年同期比28.4%増)、経常利益4,854百万円(前年同期比60.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益3,288百万円(前年同期比98.2%増)となりました。

なお、前年第2四半期において、持分法適用関連会社に係る投資損失659百万円を営業外費用に計上した影響により、経常利益以下が前年比で大きく改善しております。

当社グループでは営業収益の計上が生徒募集期に当たる第3、第4四半期に集中し、第1四半期から第2四半期にかけては、費用計上が先行する傾向があります。

(セグメント別の状況)

当第3四半期連結累計期間における各セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、セグメント利益（又は損失）は四半期連結損益計算書の営業利益に調整額を加えたものであります。

①高校生部門

当部門は、東進ハイスクール、東進衛星予備校、早稲田塾等で、主に高校生を対象とした教育事業を行っております。当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は22,949百万円（前年同期比11.2%増）、セグメント利益は5,284百万円（前年同期比33.8%増）となりました。

②小・中学生部門

当部門は、四谷大塚、木村塾、東進四国、東進育英舎等で、主に小学生、中学生を対象とした教育事業を行っております。当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は9,766百万円（前年同期比2.1%増）、セグメント利益は1,700百万円（前年同期比7.1%減）となりました。

なお、上記には株式会社ヒューマレッジに係るのれん償却額174百万円を含んでおります。

③スポーツ事業部門

当部門は、イトマンスイミングスクール、イトマンスポーツスクエアにおいて、主に水泳教室、フィットネスクラブの運営を行っております。当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は13,489百万円（前年同期比76.7%増）、セグメント利益は591百万円（前年同期比18.7%増）となりました。

なお、上記には株式会社イトマンスポーツスクールに係るのれん償却額94百万円、株式会社イトマンスポーツウェルネスに係るのれん償却額108百万円を含んでおります。

④ビジネススクール部門

当部門は、東進ビジネススクール等で、主に大学生、社会人を対象とした教育事業を行っております。当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は897百万円（前年同期比10.3%減）、セグメント損失は179百万円（前年同期は54百万円の利益）となりました。

⑤その他部門

その他部門は、出版事業部門、オンライン学校部門、こども英語塾部門、国際事業部門を含んでおります。当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は1,672百万円（前年同期比9.6%増）、セグメント利益は336百万円（前年同期比24.4%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末に比べ総資産が5,687百万円増加し、95,794百万円に、純資産が4,889百万円増加して、36,061百万円となっております。

総資産の増加は、流動資産の減少825百万円及び固定資産の増加6,512百万円が主な要因であります。流動資産の減少は、生徒募集期に発生した売掛金が順調に回収されたことにより、売掛金が607百万円減少したこと、また、配当金や法人税等の支払があったことなどにより、現金及び預金が316百万円減少したことなどによるものであります。また、固定資産の増加は、投資有価証券の時価評価を主因とする増加6,063百万円があったことなどによるものであります。

純資産の増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益3,288百万円、その他の包括利益累計額の増加4,233百万円を計上した一方で、剰余金の配当による減少2,632百万円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績が概ね計画通りに推移していることを踏まえ、2026年3月期通期の連結業績予想につきましては、前回発表（2025年4月30日付「2025年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」）の業績予想から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現時点において入手可能な情報に基づき判断したものであり、今後のさまざまな要因により、異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	18,570	18,254
売掛金	4,552	3,944
商品及び製品	330	501
その他の棚卸資産	205	203
前払費用	1,369	1,400
その他	433	327
貸倒引当金	△66	△61
流動資産合計	25,396	24,570
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,357	13,944
工具、器具及び備品（純額）	905	1,002
土地	15,463	16,029
建設仮勘定	28	477
その他（純額）	130	97
有形固定資産合計	30,885	31,550
無形固定資産		
のれん	3,126	2,748
その他	3,369	3,514
無形固定資産合計	6,496	6,263
投資その他の資産		
投資有価証券	19,360	25,424
長期貸付金	510	566
長期前払費用	461	425
敷金及び保証金	6,042	6,119
繰延税金資産	810	729
その他	208	197
貸倒引当金	△65	△52
投資その他の資産合計	27,329	33,409
固定資産合計	64,710	71,223
資産合計	90,107	95,794

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	426	410
1年内償還予定の社債	532	532
短期借入金	792	1,792
未払金	3,486	3,564
未払法人税等	954	885
前受金	7,267	9,328
預り金	4,568	2,185
賞与引当金	473	165
役員賞与引当金	45	32
その他	2,204	2,656
流動負債合計	20,750	21,551
固定負債		
社債	6,028	5,574
長期借入金	22,626	21,129
役員退職慰労引当金	288	288
退職給付に係る負債	2,453	2,473
資産除去債務	2,706	2,700
繰延税金負債	3,693	5,655
その他	389	360
固定負債合計	38,184	38,180
負債合計	58,934	59,732
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,138	2,138
資本剰余金	2,141	2,141
利益剰余金	22,178	22,834
自己株式	△4,858	△4,858
株主資本合計	21,599	22,255
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,293	13,447
為替換算調整勘定	281	356
退職給付に係る調整累計額	△2	3
その他の包括利益累計額合計	9,573	13,806
純資産合計	31,172	36,061
負債純資産合計	90,107	95,794

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
営業収益	39,487	47,725
営業原価	28,823	35,330
営業総利益	10,664	12,394
販売費及び一般管理費	6,844	7,490
営業利益	3,819	4,904
営業外収益		
受取利息	28	44
受取配当金	176	229
受取賃貸料	28	33
貸倒引当金戻入額	—	7
為替差益	17	16
その他	62	58
営業外収益合計	313	390
営業外費用		
支払利息	268	277
貸倒引当金繰入額	9	—
持分法による投資損失	695	—
その他	140	162
営業外費用合計	1,113	440
経常利益	3,018	4,854
特別利益		
投資有価証券売却益	37	3
移転補償金	—	244
特別利益合計	37	248
特別損失		
固定資産処分損	24	27
投資有価証券評価損	1	—
減損損失	2	4
特別損失合計	28	32
税金等調整前四半期純利益	3,027	5,070
法人税、住民税及び事業税	1,072	1,652
法人税等調整額	296	129
法人税等合計	1,368	1,782
四半期純利益	1,658	3,288
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,658	3,288

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,658	3,288
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,036	4,153
為替換算調整勘定	33	74
退職給付に係る調整額	0	5
その他の包括利益合計	2,070	4,233
四半期包括利益	3,729	7,521
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,729	7,521

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	高校生 部門	小・中学生 部門	スポーツ 事業部門	ビジネス スクール 部門	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	20,334	9,512	7,633	1,000	38,481	1,005	39,487	—	39,487
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	303	52	—	—	356	520	877	△877	—
計	20,638	9,565	7,633	1,000	38,838	1,526	40,365	△877	39,487
セグメント利益	3,950	1,830	497	54	6,333	270	6,604	△2,785	3,819

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△2,785百万円には、セグメント間取引消去△15百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,770百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

スポーツ事業部門セグメントにおいて、株式会社イトマンスポーツウェルネスの全株式を取得したことにより、新たにのれんを計上しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては723百万円であります。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

II. 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	高校生 部門	小・中学生 部門	スポーツ 事業部門	ビジネス スクール 部門	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	22,504	9,699	13,489	897	46,589	1,135	47,725	—	47,725
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	444	67	—	—	512	536	1,048	△1,048	—
計	22,949	9,766	13,489	897	47,101	1,672	48,774	△1,048	47,725
セグメント利益 又は損失 (△)	5,284	1,700	591	△179	7,395	336	7,732	△2,828	4,904

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失 (△) の調整額△2,828百万円には、セグメント間取引消去△16百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,811百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,993百万円	2,324百万円
のれんの償却額	269	378